

「食の半導体」安定供給

■イフジ産業関東事業部（水戸市）

液卵



鶏卵から殻を取り除いた「液卵」を製造販売するイフジ産業（福岡県）は、独立系で業界第1位のシェアを誇る。パンや菓子、マヨネーズ

など多くの食品に使われる同社の液卵は、家電や自動車に不可欠な半導体に例えられ「食の半導体」として日々の食卓を支える。全国4拠点のうち水戸市酒門町の関東事業部は東日本全域をカバーしている。

創業は1964年。81年に同市内に関東工場が設立された。関東事業部では、液卵が80%、冷凍卵と茶わん蒸しベースが20%の割合で、年間約

3万トンを生産する。年間通して安心安全な製品を安定供給するため「製造」「流通」「調達」が一体となった「サステナブル・サプライ」で取り組む。原料の鶏卵は東日本地区から幅広く調

達安定的な買い付けに加え、鶏卵の消費が落ち込む夏場にも大量に買い付けることで、需給調整機能を担っている。鳥インフルエンザによる供給不足に備え、海外からも一部調達する。

各養鶏場から仕入れた鶏卵は、鮮度検査の後、最大300トンの保管能力を持つ冷蔵庫で管理する。外殻を殺菌し、高速割卵機4台で1時間当たり約20トンを割卵。卵黄と卵白に分離することもできる。ろ



冷凍卵ヒロー（手前）と凍結製菓用卵白の製造ライン。水戸市酒門町



関東事業部内に設置された託児所。水戸市酒門町

データ

〈設立〉1981年
〈所在地〉水戸市酒門町
〈従業員数〉約160人（パート含む）
〈工場面積〉約1万4800平方メートル
〈メモ〉卵白を使ったプロテイン「REVOPRO」をオンラインで販売している。

過や殺菌を行い、急速冷却して専用容器や紙パックなどに充填していく。

出荷された液卵はパン、菓子、冷凍食品、外食などの大手メーカーに届けられ、それぞれの製品に使われる。関東事業部次長の隈本晋平さんは「消費者の目には見えないが、間接的に当社の液卵を多くの人がよく口にされている」と語る。現在、売上数量は全体で年間6万7千トで、そのうち関東事業部で同2万8千ト。30年までに全体で同8万トを目指す。

働きやすい職場づくりにも取り組み、今年度は7年連続でベースアップ（ベア）を実施している。工場内には託児所を設け、社員に働きやすい環境を提供する。液卵のさらなる需要に応えるため、「安心安全を第一に、安定供給をしていくことが使命」と力を込める。

（大島明果）
（第4金曜日掲載）